

地域の伝統工芸を対象としたデザイン提案

美術教育・千代田憲子

1. 授業の概要

教科内容に関する科目である〔実践と研究(デザイン)〕に続く1年時後期開講科目で、現代のデザインを取り巻く状況を把握した研究・制作を行うことを目的としている。快適性・総合性・関連性を授業のキーワードとして、デザイン提案とプレゼンテーションに取り組み、検証ののちに、教材としての展開の可能性も探る。

2. 授業評価・授業研究の内容

今期は伝統的工芸品の中から、「絣を用いたデザイン提案」というテーマを設定した。コンセプトをたててアイデア展開を行い、中間発表後にアイテムの制作に取り組み、最終発表を行った。

本年度の対象学生は1名のために、類似の課題を行う学部3年生の授業と一部合同の実施とした。伊予絣会館の見学とタイ山岳民族の伝統的刺繍を活用した実物資料とパワーポイントによる資料提示を行った。なお、絣の材料は手に入りにくいために提供している。また、プレゼンテーションの方法は、自身で選択してパワーポイントに決定した。

伝統工芸が抱える課題を踏まえて、「家族をターゲットとした日常でも使える絣のアイテムを提案することにより、絣を次の世代に受け継いでいく」というコンセプトに基づきファッション雑貨や生活雑貨の提案を行なっている。ペットも家族の一員と捉えて、セーラーカラーとスカートのペット服は、絣に新しいイメージと楽しさを出すことができた。また、織物以前の絣糸を揃えて束ねた状態の面白さを発見したのは、絣の工程を見学した成果であり、それがブレスレットとお揃いの首輪に展開したことも面白い。しかし、堅牢さの検証などは不十分であった。

パワーポイントによるプレゼンテーションでは、これまでの蓄積が発揮されておらず、後半は時間や体調管理のマネジメントが課題となった。

教材としての展開の可能性については、

素材を知ることの重要性や地域で生産されるものへの興味や関心を高めるために、他の素材と組み合わせることや、かすれた表現の味わいを楽しむために他の布や紙と貼り合わせたコラージュなどで比較することなど、積極的な提案をしている。

受講生が複数ではない受講環境は続くと思われ、対応が今後の課題である。

アンケート結果より抜粋(自由表記)

① 今期の取り組みのながれについて

・タイ山岳民族の刺繍を紹介するパワーポイントは楽しく、写真の入れ方や魅せ方の勉強になったが、自身のパワーポイントの制作には生かせなかった。

・伊予絣会館での見学調査から活動に入るといふながれは、絣の魅力を知ることができて良かったが、後半失速してしまった。

② 自身の制作について

・計画性のなさから慌てて制作をしたので、コンセプトを十分に反映しておらず悔しい。
・裁縫が苦手で苦勞した。

3. 「地域社会を核とした教育と研究のつながり」について

地域をテーマとしたプロジェクト課題を造形芸術コースのデザイン専攻生に10年以上実施しており、当該学生は3回目の取り組みである。この経験が修士論文の研究テーマにも関連しており、教科指導力高度化演習では和紙による実践で成果を上げた。取り組みを重ねることにより、地域の伝統や伝統的工芸に関する教科内容力の向上をはかり、地域へのまなざしが広がることを促したい。

